シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	マリン・フォレストガイドⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	マリン・フォレストガイドⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	自然体験活動を通じて問題解決力と伝達力を身につける		
到達目標	沖縄の自然、環境、社会、歴史について関心を持ち、体験活動を通して理解する		
評価基準	授業態度４０％、小テスト４０％、提出物２０％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	事前学習①	ハイキングについての安全を考慮した楽しみ方や案内方法について事前調べを実施する
3	自然活動①ハイキング演習	自然生物や植物などを通じ、沖縄で出来るハイキングの魅力を体験する
4		
5	事前学習②	海洋生物や海洋気象について事前学習を行い、海釣りの魅力を学ぶ
6	自然活動②釣り演習	釣り体験を通じ、沖縄の海洋生物や海上でのコミュニケーションスキルを学ぶ
7		
8	事後発表①	体験した自然活動①②について、事後発表を行う

9	事前学習③	沖縄こどもの国の楽しみ方や魅力について事前調べを実施する
10 11	観光名所巡り①沖縄こどもの国	開催イベントを通じ沖縄希少動物などを知り、園内の楽しみ方を学ぶ
12	事前学習④	美ら海水族館の楽しみ方や魅力について事前調べを実施する
13 14	観光名所巡り②美ら海水族館	豊かな自然や歴史文化を学び、海洋生物への餌付け体験等を通じ海洋生物への理解を深める
15	事後発表②	観光名所巡り①②の事後の発表を実施する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	マリン・フォレストガイドⅢ		
必修選択	選択	（学則表記）	マリン・フォレストガイドⅢ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	沖縄県各観光名所の理解を深め、観光分野におけるツアーの魅力を学び、知識を身につける。		
到達目標	沖縄の自然、環境、社会、歴史について関心を持ち、体験活動を通して理解する		
評価基準	授業態度４０％、小テスト４０％、提出物２０％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	初回オリエンテーション	授業流れ・到達目標について
2	沖縄県半日ツアーの作成と提案【南部編】	沖縄県の南部観光名所について調べ理解を深める。各観光名所のマップやしおりの作成をし半日ツアーを作成
3		
4		
5		
6	ツアー参加	各班に分かれ提案したツアーに参加し、ツアー内容の提案に対する評価を実施
7		
8	まとめ	振り返り・事後発表

9	沖縄県半日ツアーの作成と提案 【北部編】	沖縄県の北部観光名所について調べ理解を深める。各観光名所のマップやしおりの作成をし半日ツアーを作成
10		
11		
12		
13	ツアー参加	各班に分かれ提案したツアーに参加し、ツアー内容の提案に対する評価を実施
14		
15	総まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	営業スキル＆観光マーケティングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	営業スキル＆観光マーケティングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	プレステップマーケティング		出版社	弘文堂	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	課題解決型の営業スキルと、マーケティング思考への理解を深める
到達目標	営業・マーケティングとはどういうものなのかを理解し、実践できる
評価基準	ワークの発表：40%　提出物：30%　小テスト：30%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	相澤　和人	実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション マーケティングとは何か？	授業のねらい・到達目標について 売れる仕掛けのつくりかた、を知る
2	STP(1)　セグメンテーション〈S〉とターゲティング〈T〉	誰に買ってもらいたいのか、を考える
3	STP(2)　ポジショニング〈P〉	市場での位置を決め、顧客ニーズをつかむ
4	４つのP(1)　Product〈製品〉	売れる商品とは何か、を知る
5	４つのP(2)　Price〈価格〉	価格設定の考え方、を理解する
6	４つのP(3)　Place〈流通チャネル〉	どこで売るのか、を考える
7	４つのP(4)　Promotion〈販売促進〉	ネット広告とテレビ広告の違い
8	具体例で考えるSTPと４つのP	ヘルシア緑茶は何を解決する商品か、考える

9	売り手・買い手の力関係 業界内の競争関係	ライバルと業界について
10	消費者行動	何げなく手に取る商品にこめられた狙いとは
11	eコマース	ネット販売が何を変えたか
12	サービス業のマーケティング	モノとサービスの売り方の違い
13	法律と政策の関与	競争とルール
14	ソーシャル・マーケティング	SNSと購買行動の関係性
15	前期のまとめ	テスト

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	営業スキル＆観光マーケティングⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	営業スキル＆観光マーケティングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	プレステップマーケティング＜新版＞		出版社	弘文堂	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	課題解決型の営業スキルと、マーケティング思考への理解を深める
到達目標	営業・マーケティングがどういうものかを知り、実践できる状態
評価基準	ワークの発表：40%　提出物：30%　小テスト：30%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	相澤　和人
実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	お客様本位の営業	自分本位の営業と、お客様の立場にたった営業の違い
2	3Cと競合優位性	3つのCを理解して、マドンナをデートに誘う
3	ソーシャルスタイル別のアプローチ	大人しいお客様と、陽気なお客様。どのようにアプローチするか
4	お客様の優先順位を整理する	MUSTとWANTの整理を体験する
5	SWOT	アシックスとナイキの違いから、SWOT分析を理解する
6	営業力の3要素	ナレッジ、スキル、マインド
7	質問と共感	拡大質問、特定質問など、実際に使って会話する練習
8	商談の環境を作る	ラポールと動機づけ、を学ぶ

9	セールスポイントの使い分け	同じ業種でも扱う商品によって、接客方法が変わることを知る
10	ロジカルシンキング①	架空のコーヒーチェーンの売上減少の理由を探る
11	ロジカルシンキング②	売上減少の理由を深掘りする
12	ロジカルシンキング③	売上を回復させる具体的な取り組み方法を考える
13	ブランディング	重要なのは事実ではなく知覚された価値
14	アイデアと実行策	ターゲットインサイトとアイデア
15	後期のまとめ	テスト

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ダイビング特講Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	ダイビング特講Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア、ナレッジワークブック 各コースマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	インストラクター試験に向けての知識の振り返りを実施する。		
到達目標	インストラクター試験での5科目で合格できる。		
評価基準	筆記テスト５０％、小テスト３０％、授業態度２０％ （検定の合否含む）		
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格			
関連科目	ダイビング特講Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ダイビング物理1	水中でのエネルギーの影響
2	ダイビング物理2	高圧環境においての物質、影響
3	ダイビングの生理1	空洞に対して起こる圧力変化
4	ダイビングの生理2	気体を呼吸することによる生理的影響
5	ダイビング器材1	重器材、軽器材の重要性
6	ダイビング器材2	ウェットスーツ、ダイブコンピューターの重要性
7	減圧理論1	減圧症にならない為の対策
8	減圧理論2	減圧モデル

9	RDP1	レクリエーション・ダイブ・プラナーの機能性
10	RDP2	減圧不要限界（NDL）の求め方
11	ダイビングスキル	基本スキルの復習、応用
12	ダイビングスキル	緊急時スキルの復習、応用
13	ダイビング環境	水中世界の原理
14	ダイビング環境	水中世界に生息する生き物
15	インストラクターマニュアル1	インストラクターマニュアルの解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ダイビング特講Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	ダイビング特講Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア、ナレッジワークブック 各コースマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	インストラクター試験に向けての知識の振り返りを実施する。
到達目標	インストラクター試験での5科目で合格できる。
評価基準	筆記テスト５０％、小テスト３０％、授業態度２０％ （検定の合否含む）
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	ダイビング特講Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	インストラクターマニュアル2	インストラクターマニュアルの使用法
2	水中写真1	カメラの基礎知識
3	水中写真2	水中写真への応用、ガイディング時の注意点
4	デジタルカメラ	デジタルカメラの基礎知識・水中への応用、ガイディング時の注意点
5	ウエットスーツ	ウエットスーツの生地の比較、採寸
6	ＥＦＲ	ＥＦＲ必要性とメリット、取得方法等
7	スペシャルティ1	各スペシャルティの必要性とメリット、取得方法等
8	スペシャルティ2	各スペシャルティの必要性とメリット、取得方法等

9	スペシャルティ3	各スペシャルティの必要性とメリット、取得方法等
10	ディスティンクティブＳＰ	ディスティンクティブＳＰの必要性とメリット、取得方法等
11	ＭＳＤＴ、ＩＤ、ＭＩ、ＣＤ	各種資格の必要性とメリット、取得方法等
12	ＰＩＲＡ規準	ダイブセンターのランクの違い、メリット等
13	旅行法	ダイビング経営のおける旅行法
14	自然環境保護1	自然環境保護の必要性、生態系への影響、ダイビング業界の関わり
15	海洋生物のついて	各海洋生物の種類や特徴、危険性を纏め、発表する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	インストラクター特講Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	インストラクター特講Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	PADIダイブマスターマニュアル PADIインストラクターマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	PADIダイブマスターでのデモンストレーションスキルを身につける。 PADIオープンウォータースクーバインストラクターでのデモンストレーションスキルを身につける。
到達目標	PADIダイブマスター試験で出題される実技科目を説明できる。 PADIオープンウォータースクーバインストラクター試験で出題される実技科目を説明できる。
評価基準	筆記テスト５０％、小テスト３０％、授業態度２０％
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	インストラクター特講Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	減圧モデル減圧理論とRDP	ハルデーン減圧モデルの基本構造、機能
2	RDPテーブル	圧力グループの出し方・水面休息時間の出し方・最小水面休息時間の出し方
3	ERDP	圧力グループの出し方・水面休息時間の出し方・最小水面休息時間の出し方
4	ERDP	反復ダイビング、圧力グループの出し方
5	アルティチュード・ダイビング減圧理論	高所潜水での特別手順
6	循環器系と呼吸器系	酸素の必要性と循環器の仕組み
7	循環器系と呼吸器系	血液と心臓血管系の構造と機能
8	減圧症について	各タイプの減圧症の解説と要因

9	レギュレーターの仕組み	クローズド・サーキット・スクーバとオープン・サーキット・スクーバについて
10	ダイバーに起こりうる水中の影響	音波・熱・光の関係性の解説
11	アルキメデスの法則	水中における物体と重力の関係性
12	IDC e-Leaming	オリエンテーション ダイブリーダーのためのダイブセオリー（ダイビング理論）
13	IDC e-Leaming	PADIシステムの概要
14	IDC e-Leaming	学習、インストラクション、PADIシステム
15	IDC e-Leaming	ディスカバー・スクーバ・ダイビングとエクスペリエンス・プログラム PADIオープン・ウォーター・ダイバー・コース

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	インストラクター特講Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	インストラクター特講Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	PADIダイブマスターマニュアル PADIインストラクターマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	PADIダイブマスターでのデモンストレーションスキルを身につける。 PADIオープンウォータースクーバインストラクターでのデモンストレーションスキルを身につける。
到達目標	PADIダイブマスター試験で出題される実技科目を説明できる。 PADIオープンウォータースクーバインストラクター試験で出題される実技科目を説明できる。
評価基準	筆記テスト５０％、小テスト３０％、授業態度２０％
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	インストラクター特講Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	IDC e-Learning	リスク・マネージメントと法律上の留意事項 リスクを管理する
2	IDC e-Learning	PADIクオリティ・マネージメントとライセンシング 講習プレゼンテーション入門
3	IDC e-Learning	知識開発の実施と評価
4	IDC e-Learning	限定水域トレーニング
5	IDC e-Learning	オープンウォーター・トレーニング
6	IDC e-Learning	継続教育とリーダーシップ・コース ビジネス・オブ・ダイビング
7	IDC e-Learning	レクリエーショナル・ダイブプラナー（RDP）の教え方
8	各コースプログラムガイド	オープン・ウォーター・ダイバー・コース・ＰＡＤＩスクーバ・ダイバー・コース

9	各コースプログラムガイド	アドベンチャー・イン・ダイビング・プログラム
10	各コースプログラムガイド	レスキュー・ダイバー・コース
11	各コースプログラムガイド	マスター・スクーバ・ダイバー・プログラム
12	各コースプログラムガイド	ダイブマスター・コース
13	各コースプログラムガイド	ディスカバー・スクーバ・ダイビング・プログラム・バブルメーカー・プログラム
14	各コースプログラムガイド	ＰＡＤＩシールチーム・スクーバ・リビュー
15	各コースプログラムガイド	ディスカバー・ローカル・ダイビング、スキン・ダイバー・コース

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	水中生物とエコロジーⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	水中生物とエコロジーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	日本の海水魚改訂版　（山渓ハンディ図鑑）		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	水中世界の生態系について理解する。
到達目標	身近な（宮古島や地域別の海）海洋環境について研究発表ができる。 （PADI　AWAREに関連付ける）
評価基準	筆記テスト５０％、小テスト３０％、授業態度２０％
認定条件	出席が総時間数の３分の２以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	水中生物とエコロジーⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）　／　実務経験　○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	水中世界－巨大なひとつの生態系	外洋の生態系
3	水中世界－巨大なひとつの生態系	沿岸の生態系
4	水中世界－巨大なひとつの生態系	サンゴ礁の生態系
5	サンゴ礁－海の熱帯雨林	サンゴ礁の重要性、恩恵
6	サンゴ礁に生息する生物を調べて研究をする	調べる：サンゴ礁に生息する生物（3種類以上）
7	ダイビングポイント周辺海域に生息する生物を調べて研究する①	調べる：将来働くであろうエリアの生息生物
8	ダイビングポイント周辺海域に生息する生物を調べて研究する②	調べる：将来働くであろうエリア甲殻類・軟体動物

9	ダイビングポイント周辺海域に生息する生物を調べて研究する③	出現が予測される魚の見分け方を知る。
10	発表の準備	発表内容の準備
11	研究発表	発表：サンゴ礁と水中生物の関係性について
12	ダイビングポイントと生物の関係性	将来働くであろうエリアのダイビングポイントの生物を知る。
13	ダイビングポイントと楽しみ方について	将来働くであろうエリアのダイビングポイントを、ガイドする際の注意点と楽しみ方について
14	発表の準備	発表内容の準備
15	研究発表	発表：将来働くであろうエリアのダイビングポイントの見どころと注意点について

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	水中生物とエコロジーII		
必修選択	選択	（学則表記）	水中生物とエコロジーII		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	日本の海水魚改訂版　（山渓ハンディ図鑑）		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	水中世界の生態系について理解する。
到達目標	身近な（宮古島や地域別の海）海洋環境について研究発表ができる。 （PADI　AWAREに関連付ける）
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	水中生物とエコロジーI
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	危機に瀕している水中資源	汚染・様々な汚染の実態
2	危機に瀕している水中資源	汚染・様々な汚染の実態
3	危機に瀕している水中資源	漁業問題（世界の漁業）
4	危機に瀕している水中資源	漁業問題、沿岸地域、湿地帯の自然破壊
5	進む環境破壊－その他の水中環境	世界の海域で危機に瀕している海（地中海・マラッカ海峡・北海）
6	進む環境破壊－その他の水中環境	世界の海域で危機に瀕している海（バルト海・ペルシャ湾・カリブ海）
7	公園に行きゴミ問題を考える	身近な公園、ゴミの種類を確認をしながら実施
8	現状および未来の解決策	漁業－責任ある管理・漁業レベル

9	現状および未来の解決策	沿岸地域管理・国際的な措置
10	水中環境保護のために何ができるか	ＡＷＡＲＥダイビング・環境保護への関わり
11	水中環境保護のために何ができるか	海洋保護地域・人工漁礁・水中環境の未来
12	グループディスカッション	環境保護、水中生物、エコ等様々な題材のテーマ、ディスカッション
13	グループディスカッション	環境保護、水中生物、エコ等様々な題材のテーマ、ディスカッション
14	研究発表準備	発表内容の準備
15	研究発表	研究発表をする

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ダイビング施設の運営と管理Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	ダイビング施設の運営と管理Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	PADI　ダイブマスターマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ダイビング施設の運営に関するノウハウを身につける。
到達目標	ダイビングショップのオーナーになる為に必要な知識を説明できる。
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	ダイビング施設の運営と管理Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）　実務経験　○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	ダイビングビジネス	ダイブマスター講習の一環
3	職業としてのダイビング	ダイブマスター講習の一環
4	ダイビング施設の運営１	ダイビング施設の存在理由、運営する上での注意点
5	ダイビング施設の運営２	各コースの運営方法、コースフィーの決定
6	ダイビング施設の運営３	利益率の算出・器材、各種コースの価格設定
7	ダイビング施設の運営４	ワークショップ（コース・教材料金の設定）
8	ダイビング施設の管理１	施設、ダイビング器材、必要となる管理能力

9	ダイビング施設の管理２	在庫、金銭、従業員など、必要となる管理能力
10	ダイビング施設の管理３	減価償却の算出方法等
11	ダイビング施設の管理４	ワークショップ（減価償却の価格設定）
12	ダイビングビジネス１ （ダイバー像の検証）	ダイビングビジネスの市場調査①
13	ダイビングビジネス２ （ダイバー像の検証）	ダイビングビジネスの市場調査②
14	ダイビングビジネス３ （ダイバー像の検証）	ビジネスプランの組み立て
15	ダイバーの活性化１	活性化することによるダイビング以外での相乗効果

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ダイビング施設の運営と管理Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	ダイビング施設の運営と管理Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	PADI　ダイブマスターマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ダイビング施設の運営に関するノウハウを身につける。
到達目標	ダイビングショップのオーナーになる為に必要な知識を説明できる。
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	ダイビング施設の運営と管理Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）　実務経験　○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ダイバーの活性化２	ワークショップ（現実的な近隣ツアーや遠方ツアー等を企画、価格を設定）
2	ダイビング広告１	様々なダイビング広告の検証、解説、有効的な広告戦略
3	ダイビング広告２	実際に広告を作成、検証
4	消費者心理と購買意欲１	物販の重要性
5	消費者心理と購買意欲２	有効的手段、ワークショップ（購買意欲を持たせる方法、企画）
6	ダイビング器材の知識開発１	知っておくべき基本的な知識の復習
7	ダイビング器材の知識開発２	お客様が求める器材に関する情報提供手段
8	ダイビング産業とその将来１	Ｃカード発行枚数における業界の推移

9	ダイビング産業とその将来２	将来的な展望、新たなマーケットの開発の重要性
10	ダイビングツアー１	ツアーの企画運営、顧客心理を検証
11	ダイビングツアー２	ワークショップ（グループで実際に現実的なツアー、企画）
12	ダイビングツアー３	ワークショップ（グループで実際に現実的なツアー、企画）
13	ダイビング施設のディスプレイ１	店内のディスプレイ術、品物の配置、ポップの効果等
14	ダイビング施設のディスプレイ２	店内のディスプレイ、ポップを作成
15	クレーム	クラス内でクレーム処理のシュミレーション

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	リスクマネジメントⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	リスクマネジメントⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	15
使用教材	PADIダイブマスターマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ダイビングに関するリスクマネジメントを理解する。 法律システムについて理解する。
到達目標	現場で働く中で直面するリスクを減らすためにはどうすべきかを発表できる。
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	リスクマネジメントⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	リスク・マネージメント	リスク、対処法
3	賠償責任保険1	PADI管理課傷害保険
4	賠償責任保険2	PADIメンバー総合保険
5	法的リスク管理1	リスク・マネジメントの目的、重要性
6	法的リスク管理2	過失、注意義務
7	法的リスク管理3	PADI基準の厳守
8	法的リスク管理4	各コースの同意書類、作成の仕方

9	事故発生時のステップ	緊急アシストプランの作成、修正
10	年間の事故発生数の調査	実際に起こった過去の事故例を調査、検証
11	年間の事故発生数の調査	実際に起こった過去の事故例を調査、検証
12	事故例の検証1	実際に起こった過去の事故例を検証、ディスカッション
13	事故例の検証2	実際に起こった過去の事故例を検証、ディスカッション
14	事故例の検証3	実際に起こった過去の事故例を検証、ディスカッション
15	事故例の検証4	実際に起こった過去の事故例を検証、ディスカッション

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	リスクマネジメントⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	リスクマネジメントⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	15
使用教材	PADIダイブマスターマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ダイビングに関するリスクマネジメントを理解する。 法律システムについて理解する。
到達目標	現場で働く中で直面するリスクを減らすためにはどうすべきかを発表できる。
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	リスクマネジメントⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	書類関係	危険の告知書の意味・安全潜水標準実施要項了解声明書の意味
2	スクリーニング	スクリーニングの意図・スクリーニングの必要性
3	認定基準	規準尊守の重要性・規準の逸脱
4	指導システム	団体の指導システムを守る意義
5	クラスルーム指導	ナレッジリビュー、クイズ＆エグザム
6	ウォータートレーニング	インストラクターの監督、行為、認識・環境
7	PADIインストラクター保険　DANインストラクター保険	賠償責任保険と総合保険の違い・DANインストラクター保険のメリット等
8	ダイブストアー保険	ダイブストアー保険の概要

9	ダイビング中のトラブルの検証1（ワークショップ）	起こり得るトラブルを検証、発表
10	ダイビング中のトラブルの検証2（ワークショップ）	起こり得るトラブルを検証、発表
11	ダイビング中のトラブルの検証3（ワークショップ）	起こり得るトラブルを検証、発表
12	事故例の検証3	過去のダイビング事故を検証、予防策、緊急事態の対策
13	事故例の検証4	過去のダイビング事故を検証、予防策、緊急事態の対策
14	事故防止の注意点	ダイバーが身につけるべき基本（適正ウエイト、フィンスイム、浮力、バディシステム等について）
15	安全のための準備	緊急アシストプラン・安全器材

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	潜水医学		
必修選択	選択	（学則表記）	潜水医学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ダイビング時に発生する潜水障害について理解する。 有効な処置を実施できるように様々な障害について理解する。
到達目標	応急処置を実施するために必要な症状、徴候について発表できる。
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	減圧理論とＲＤＰ1	皮膚の減圧症
3	減圧理論とＲＤＰ2	神経系の減圧症
4	減圧理論とＲＤＰ3	肺の減圧症
5	減圧理論とＲＤＰ4	脳の減圧症
6	減圧理論とＲＤＰ5	窒素負荷とハーフタイム
7	スクイズ・リバースブロック	圧力の変化ででる障害
8	熱疲労・熱射病・低体温症	温度変化の生理的反応

9	一酸化炭素中毒	一酸化炭素中毒、ダイバーに与える影響
10	酸素中毒	酸素中毒のタイプと症状
11	肺の過膨張障害1	肺の過膨張障害の症状と徴候
12	肺の過膨張障害2	肺の過膨張障害になる原因、対策
13	海洋生物によるケガ1	海洋生物によるケガへの予測
14	海洋生物によるケガ2	海洋生物によるケガへの対処法
15	その他ダイビングに関する障害等	ディスカッション

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	気象・海洋学		
必修選択	選択	（学則表記）	気象・海洋学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	PADI オープンウォーターダイバーマニュアル PADI ダイブマスターマニュアル　エンサイクロペディア		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	快適なダイビングを実施するために気象・海洋学について理解する。 ダイビングに適した海況について理解する。
到達目標	ダイビング実習や勤務実習に向けた気象・海洋学の重要性について説明できる。
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）　／　実務経験　○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	海洋についての知識概念1	海洋、気象の変化、海洋学、気象学
3	海洋についての知識概念2	日本、世界の海の基礎知識
4	海洋の生物	海洋生物の特色
5	海流と黒潮、親潮	世界の海流、日本の海流
6	潮汐と潮流1	月齢と潮汐の関係
7	潮汐と潮流2	潮汐による潮流の影響
8	波についての知識１	波の仕組み、ダイバーへの影響

9	気象と大気についての知識概念	ダイバーに影響を及ぼす大気の組成
10	風に関する知識	影響を及ぼす風の仕組み
11	雲、雨、霧に関する知識	雲や雨の仕組み
12	天気図の概略と気圧	天気図の見方、ツアー計画に役立つスキル
13	いろいろな前線と気団1	一般的な天気図の見方・高、低気圧の仕組み
14	いろいろな前線と気団2	気団と前線の各種類の仕組み
15	低気圧と台風	海のコンディション、台風の仕組み

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ダイビング特演		
必修選択	選択	（学則表記）	ダイビング特演		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	エンサイクロペディア		出版社	PADI	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	日本・世界のダイビングポイント、水中環境を理解する。 ドライスーツの使用方法を理解する。
到達目標	水中環境を説明できる。 ドライスーツの使用方法を説明できる。 ドライスーツとウエットスーツとの違いを説明できる。
評価基準	筆記テスト50%、小テスト30%、授業態度20%
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	集中講義＋海洋実習を実施 原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・授業のねらい・達成目標
2	日本のダイビングポイント・環境	日本で潜れるエリア、環境
3	日本のダイビングポイント・環境	ドライスーツが必要な時期、環境
4	世界のダイビングポイント・環境	世界で潜れるエリア、環境
5	世界のダイビングポイント・環境	ドライスーツが必要な時期、環境
6	ダイビングスーツの種類について	生地の素材、厚さ、スタイル
7	ドライスーツの使用について	ドライスーツのメリット、デメリット
8	ドライスーツの使用について	ドライスーツの種類

9	ドライスーツの使用について	ドライスーツのインナー、補助アイテム
10	ドライスーツの使用について	ドライスーツの着脱方法、注意点
11	ドライスーツの使用について	吸気バルブ、排気バルブの操作方法
12	ドライスーツの使用について	ドライスーツでの浮力コントロール
13	ドライスーツの使用について	ドライスーツ、簡単なメンテナンス方法
14	ドライスーツの使用について（スキル評価）	ドライスーツでの中性浮力①②、トラブル回避①
15	ドライスーツの使用について（スキル評価）	ドライスーツでの中性浮力③④、トラブル回避②

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	スクーバダイビング実習Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	スクーバダイビング実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	5	150
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる。 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる。 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる。
評価基準	実習評価：５０％、学校評価：５０％（実習手帳評価）
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）　実務経験　○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	スキルチェック	限定水域スキルの評価と開発
2	水中地図作成	海洋講習にて水中地図を作成
3	レスキュー評価・器材交換	レスキュー評価・器材交換ともにプロレベルで実施
4	ディープダイビングワークショップ	ディープダイビング時の注意事項について
5	現場トレーニング実習	現場で必要な準備・スキルについて
6	Ｃ／Ｗでのスクーバリビュープログラム	現定数域にてコースの実施
7	ガイドマーシャル①②	実践を想定したガイドを実施
8	サーチ＆リカバリーワークショップ	3つの結び方、引き上げ手順を確認

9	インストラクション、PADIシステム	PADIシステムについてマニュアルを使用し理解する
10	知識開発プレゼンテーション	知識開発プレゼンテーションを本番を想定し練習
11	限定水域での講習	24スキルを再確認し、プロレベルで実施
12	オープン・ウォーター・ダイバー・コース	コースの開催中に実際に起こりうるトラブルを想定。
13	EFRIコース	EFRIライセンス取得
14	海洋プレゼンテーション	海洋プレゼンテーションを本番を想定し実施
15	IE	筆記、CW、OWのファイナルエグザム

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	スクーバダイビング実習Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	スクーバダイビング実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	6	180
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる。 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる。 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる。
評価基準	実習評価：５０％、学校評価：５０％（実習手帳評価）
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）　　実務経験　○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側へ事前連絡の上、受入可否の確認 活動実施にあたり、原則 企業側と覚書を交わす
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	１日の実習時間の最大は８時間（休憩時間を含めず）とし、原則２２時まで

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	マリンスポーツⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	マリンスポーツⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	マリンスポーツに触れ、「笑顔」と「感動」を与えることが出来る人材を目指す
到達目標	マリンスポーツを自身が体験することによって、将来お客様にマリンスポーツの素晴らしさを伝えることや、ツアーやアクティビティーの提案を出来る力を身に付ける
評価基準	実習評価：５０％　・授業評価：５０％
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	マリンアクティビティ 1日目	トロピカルビーチにてマリンスポーツ体験 ・バナナボート、ビスケット、カヤック、スノーケル ・宜野湾マリン支援センターにてプールダイビング体験 ・ビーチのスタッフの仕事にふれる（マリンスタッフ、ライフセーバー）
2		
3		
4		
5		
6		
7	1日目まとめ	ビーチスタッフの仕事の種類、やりがい、マリン体験メニュー＆案内方法を考えてもらう
8		

9	マリンアクティビティ 2日目	那覇の港より船のマリンスポーツ体験 ・体験ダイビング、シュノーケル ・船の添乗員の仕事にふれる（船長、船クルー）
10		
11		
12		
13		
14	2日目まとめ	船のマリンスポーツの仕事の種類、やりがい、マリン体験メニュー＆案内方法を考えてもらう
15	総まとめ	体験したアクティビティーの中から、自身が最もオススメしたいものを、教員・クラスメイトに対して提案する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	マリンスポーツⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	マリンスポーツⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	マリンスポーツに触れ、「笑顔」と「感動」を与えることが出来る人材を目指す
到達目標	マリンスポーツを自身が体験することによって、将来お客様にマリンスポーツの素晴らしさを伝えることや、ツアーやアクティビティーの提案を出来る力を身に付ける
評価基準	実習評価：５０％　・授業評価：５０％
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する

担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	マリンアクティビティ 1日目	ホエールウォッチングツアーに参加 添乗員の仕事内容と、観光客を楽しませるためのアイデアを学ぶ
2		
3		
4		
5		
6		
7	1日目まとめ	自身が考えるホエールウォッチングツアーを提案する
8		

9	マリンアクティビティ 2日目	パラセーリングツアー、青の洞窟ツアーに参加 添乗員の仕事内容と、観光客を楽しませるためのアイデアを学ぶ
10		
11		
12		
13		
14	2日目まとめ	自身が考えるツアーを提案する
15	総まとめ	体験したアクティビティーの中から、自身が最もオススメしたいものを、教員・クラスメイトに対して提案する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	アウトドア・キャンプⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	アウトドア・キャンプⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	アウトドアに触れ、「笑顔」と「感動」を与えることが出来る人材を目指す
到達目標	アウトドアを自身が体験することによって、将来お客様にアウトドア、自然に触れ合う素晴らしさを伝えることや、ツアーやアクティビティーの提案を出来る力を身に付ける
評価基準	実習評価：５０％　・授業評価：５０％
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）
実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アウトドアアクティビティ 1日目	フィールド調査（地域の自然、危険性を調査する） 安全管理トレーニング 野外活動の勉強（ロープワーク、テントやタープの設営） チームビルディング
2		
3		
4		
5		
6		
7	1日目まとめ	自分が教えたい地域のアウトドアツアーの考案
8		

9	アウトドアアクティビティ 2日目	沖縄の歴史、自然を学ぶ（宜野湾市） 鍾乳洞・湧水ツアーに参加 サンゴの保全活動体験と学習
10		
11		
12		
13		
14	2日目まとめ	宜野湾市内を使った自然体験ツアーの考案
15	総まとめ	観光客に見せる観光ツアーのチラシ作成と発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	アウトドア・キャンプⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	アウトドア・キャンプⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	アウトドアに触れ、「笑顔」と「感動」を与えることが出来る人材を目指す
到達目標	アウトドアを自身が体験することによって、将来お客様にアウトドア、自然に触れ合う素晴らしさを伝えることや、ツアーやアクティビティーの提案を出来る力を身に付ける
評価基準	実習評価：５０％　・授業評価：５０％
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）　／　実務経験：○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アウトドアアクティビティ 1日目	沖縄県内でデイキャンプ実施（日帰りキャンプ） ロープワーク、設営、ごはんづくり
2		
3		
4		
5		
6		
7	1日目まとめ	キャンプの流れ、気を付けることをまとめて発表
8		

9	アウトドアアクティビティ 2日目	沖縄県内でデイキャンプ実施（日帰りキャンプ） ロープワーク、設営、ごはんづくり 前回を踏まえて自分たちで考え実施する
10		
11		
12		
13		
14	2日目まとめ	キャンプの流れ、気を付けることをまとめて発表
15	総まとめ	キャンプでの大切なこと、学べることを発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	旅行業法		
必修選択	選択	（学則表記）	旅行業法		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	旅行業法及びこれに基づく命令、科目別速習問題集		出版社	JTB総合研究所	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目指し、旅行業に関する法制度を理解し、身につける。 ・旅行業等を営む者にとって遵守すべき事柄を規定した法律であることを理解しつつ、目的やそれらを達成する為に設けられた制度と旅行実務についての知識を深める。
到達目標	・国内旅行業務取扱管理者試験における「旅行業法」において合格ラインレベル以上を身につける。 ・旅行業法及びこれに基づく法令を理解し、観光業界就職を目指す原動力とする。
評価基準	検定試験：30％　模擬試験：30％　小テスト：25％　提出物：15％
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者
関連資格	国内旅行業務取扱管理者・総合旅行業務取扱管理者・旅程管理主任者
関連科目	国内旅行業務取扱管理者Ⅰ　旅行業約款　国内旅行実務（国内運賃料金　国内観光資源・地理）
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	荒木　佐和子
実務経験	○
実務内容	現役で添乗員として勤務。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 旅行業法第１章　総則	授業のねらい・到達目標・成績評価について説明 旅行業の現状説明・概要および旅行業法の目的と定義
2	旅行業法第２章　旅行業等①	旅行業及び旅行業者代理業者、旅行サービス手配業の登録制度について
3	旅行業法第２章　旅行業等②	営業保証金制度について①
4	旅行業法第２章　旅行業等③	営業保証金制度について②、旅行業務取扱管理者
5	旅行業法第２章　旅行業等④	習熟度テスト、旅行サービス手配業務取扱管理者について 料金の掲示・旅行業約款
6	旅行業法第２章　旅行業等⑤	取引条件の説明・書面の交付　外務員の証明書の携帯等 広告・標識の掲示
7	旅行業法第２章　旅行業等⑥	旅程管理　禁止行為　受託契約　旅行業者代理業者
8	旅行業法第２章　旅行業等⑦	旅行業者代理業者　事業の廃止等・業務改善命令・登録の取り消し等

9	旅行業法第３章　旅行業協会①	習熟度テスト、旅行業協会について
10	旅行業法第３章　旅行業協会②	旅行業協会、弁済業務保証分担金について
11	旅行業法第４章雑則　旅行業法第５章罰則　その他関連法規	雑則、罰則、景表法、消費者契約法、個人情報保護法の概要、習熟度テスト
12	全体の解説とまとめ	練習問題等にて傾向と対策の実践
13	模擬試験第１回目	検定試験に向けての対策を行う
14	模擬試験第１回目解答・解説	前回の模擬試験の解答と解説等
15	模擬試験解答・解説過去問演習	直前の模擬試験の解答と解説　過去問にて総復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	旅行業約款		
必修選択	選択	（学則表記）	旅行業約款		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	3	45
使用教材	旅行業実務シリーズ　旅行業約款、運送・宿泊約款		出版社	JTB総合研究所	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	国内旅行業務取扱管理者合格を目指し、必要な知識を身につける		
到達目標	国内旅行業務取扱管理者資格　合格		
評価基準	検定試験：30％　模擬試験：30％　小テスト：20％　提出物：20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	国内旅行業務取扱管理者		
関連科目	国内旅行業務取扱管理者Ⅰ　旅行業約款　国内運賃・料金　国内地理		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	荒木　佐和子	実務経験	○
実務内容	現役で添乗員として勤務。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 第一章　総則	授業のねらい・到達目標・成績評価について説明 適用範囲/用語の定義/旅行契約の内容(募集型・受注型・手配旅行)
2	第二章　契約の締結/第三章　契約の変更	契約の申込み/契約締結の拒否/契約成立時期等　(募集型・受注型・手配旅行)
3	第三章　契約の変更/第四章　契約の解除	旅行者の解除権/旅行会社の解除権等　(募集型・受注型・手配旅行)
4	第五～七章　団体・グループ契約等	団体・グループ契約/旅程管理/責任　(募集型・受注型・手配旅行)
5	第七章　責任	旅程保証/特別補償　(募集型・受注型・手配旅行)
6	第七章　責任	特別補償　(募集型・受注型・手配旅行)
7	旅行相談契約の部	旅行相談契約/理解度チェックテスト
8	国内旅客運送約款	国内旅客運送約款について

9	国内旅客運送約款	国内旅客運送約款について/理解度チェックテスト
10	貸切バス・フェリー標準運送約款	貸切バス/フェリー標準運送約款
11	フェリー標準運送約款・モデル宿泊約款	フェリー標準運送約款/モデル宿泊約款
12	総合まとめ	貸切バス/フェリー標準運送約款/モデル宿泊約款　チェックテスト
13	総合まとめ	過去問を解く
14	総合まとめ	過去問を解く
15	総合まとめ	過去問を解く

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	国内旅行業務取扱管理者対策		
必修選択	選択	（学則表記）	国内旅行業務取扱管理者対策		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	国内観光資源・旅行業法 科目別速習問題集		出版社	ＪＴＢ総合研究所	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	国内旅行業務取扱管理者における必要な知識について学ぶ。		
到達目標	国家試験・国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目指す。		
評価基準	検定試験：30％　テスト：30％　小テスト：２0％　提出物：20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	総合旅行業務取扱管理者試験　　地理検定3～4級		
関連科目	国内地理・JR運賃計算		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	相澤　和人	実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国内旅行業務取扱管理者 試験対策	授業では補えきれていない国家試験科目の補足授業時間として授業を展開
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

9		
10		
11		
12	国内旅行業務取扱管理者 試験対策	授業では補えきれていない国家試験科目の補足授業時間として授業を展開
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	レストランサービス検定対策Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	レストランサービス検定対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	西洋料理料飲接遇サービス技法 レストランサービス技能検定　学科試験合格をめざして		出版社	一般財団法人　職業訓練教材研究会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	国家検定試験受検に向けて、レストランにおける料飲ならびにサービスマナーに関する基本的な知識を習得する		
到達目標	国家検定レストランサービス技能士3級　学科試験合格を目標として、 ホテルサービスの基本知識と技術をもった人材になる		
評価基準	検定合格40％　各章のまとめ20％×２　　授業態度20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	国家検定　レストランサービス技能士３級		
関連科目	レストランサービス検定対策Ⅰ レストランサービス演習Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮城　正樹	実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 模擬試験	授業のルール・成績評価説明 模擬試験を実施する
2	宴会とレストランサービス5	プロトコール、配席のルール、国旗掲揚について
3	食文化	食の禁忌・食文化とテーブルマナーについて
4	まとめ	演習問題を実施する
5	施設管理 苦情対応と遺失物の取り扱い	ホテル設備と防災・苦情対応について
6	食品衛生及び公衆衛生	食品衛生法の定義と目的、食中毒の分類と特徴について
7	食品衛生及び公衆衛生	食品衛生法と公衆衛生について
8	安全衛生	労働安全衛生法と労働基準法について

9	まとめ	演習問題を実施する
10	検定対策１	検定試験に向けて対策を行う
11	検定対策2	検定試験に向けて対策を行う
12	検定対策3	検定試験に向けて対策を行う
13	検定対策4	検定試験に向けて対策を行う
14	検定対策5	検定試験に向けて対策を行う
15	検定対策6	検定試験に向けて総まとめの対策を行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	レストランサービス演習Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	レストランサービス演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	基礎からわかるレストランサービス スタンダードマニュアル		出版社	一般財団法人　職業訓練教材研究会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	国家検定実技試験受検に向けて、レストランにおける料飲サービスに関する基本的な動作を習得する		
到達目標	国家検定レストランサービス技能士3級　実技試験合格を目標として、 ホテルサービスの基本知識と技術をもった人材になる		
評価基準	検定学科合否20％・まとめ実践20％×2・評価シート20％・授業態度20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	国家検定　レストランサービス技能士３級		
関連科目	レストランサービス検定対策Ⅰ・Ⅱ レストランサービス演習Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮城　正樹	実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション サーバーの使い方	授業の流れ、到達目標について サーバーの使い方を知る
2	朝食のサービス	朝食におけるサービスを行う
3	ランチタイムの サービス1	ランチタイムのテーブルサービスを行う
4	ランチタイムの サービス2	ランチタイムのテーブルサービスを行う
5	まとめ	学んだことを実践する
6	ディナータイムの サービス1	ディナータイムのサービスをおこなう
7	ディナータイムの サービス2	ディナータイムのサービスをおこなう
8	ディナータイムの サービス3	ディナータイムのサービスをおこなう

9	まとめ	学んだことを実践する
10	検定実技 シミュレーション1	実技模擬課題を知る
11	検定実技 シミュレーション2	実技模擬課題にチャレンジ
12	検定実技 シミュレーション3	実技模擬課題タイムトライアル
13	検定実技トライアル 実践確認（実技）	過去の課題をテーマにタイムトライアル
14	検定学科対策	学科試験対策に取り組む
15	まとめ	学科試験の振り返りと前期まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	レストランサービス演習Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	レストランサービス演習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	基礎からわかるレストランサービス スタンダードマニュアル		出版社	一般財団法人　職業訓練教材研究会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	国家検定実技試験受検に向けて、レストランにおける料飲サービスに関する基本的な動作を習得する		
到達目標	国家検定レストランサービス技能士3級　実技試験合格を目標として、 ホテルサービスの基本知識と技術をもった人材になる		
評価基準	検定実技合否20％・まとめ実践20％×3・授業態度20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者"		
関連資格	国家検定　レストランサービス技能士３級		
関連科目	レストランサービス検定対策Ⅰ・Ⅱ レストランサービス演習Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮城　正樹	実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	国家試験 レストラサービス 実技試験対策	本年度課題に取り組む
2		本年度課題に取り組む
3		本年度課題に取り組む
4		本年度課題に取り組む
5		本年度課題に取り組む
6	テーブルマナー	大人の食卓マナーを学ぶ
7	ワイン抜栓と ティスティングの知識	ワインの取り扱いとワインサービスマナーを学ぶ

8	オリジナルカクテル 創作法1	①カクテルを創作する手順を学ぶ
9	オリジナルカクテル 創作法2	ノンアルコールカクテルをイメージし試作する
10	オリジナルカクテル 創作法3	オリジナルノンアルコールカクテルを完成させる
11	カクテルコンテスト　（まとめ 実践）	実践する
12	オレンジのカービング	オレンジのカービングを行う
13	フレーミング デザート１	フレーミングデザートを作る
14	フレーミング デザート2	フレーミングデザートを作る
15	まとめ	学んだことを実践する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	エアライン業界総合Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	エアライン業界総合Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	航空知識のABC		出版社	イカロス出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	空港旅客業務の基礎知識と空港業務の他職種についての基礎知識を習得する。航空機の機種やメカニズムについての知識を習得する。また、航空輸送の安全と航空保安について学び、安全に対する意識を醸成する。
到達目標	空港旅客業務の内容を理解し説明することができる。空港業務の他職種の業務内容について理解し説明することができる。航空機の機種やメカニズムを理解し説明することができる。過去の事例から安全の重要性を理解し、高い意識を持つことができる。
評価基準	テスト：30%　小テスト：20%　提出物：20%　（意欲・態度　30%）
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	空港業務演習Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	幸喜　若菜
実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	航空会社の空港業務①	国際線e-TKT控えの記載内容について学ぶ
3	航空会社の空港業務②	空港における旅客業務のポイントを学ぶ
4	イレギュラーハンドリング	イレギュラーの種類と会社都合、不可抗力について学ぶ
5	運送約款	国内運送約款と国際運送約款について学ぶ
6	時刻表	各社時刻表の見方と記載内容について確認する

7	クレーム対応	クレームについての理解を深め、対応のポイントを学ぶ
8	運航管理業務・運航支援業務	運航管理業務、運航支援業務の概要について学ぶ
9	整備業務・ケータリング業務	整備業務、ケータリング業務の概要について学ぶ
10	旅客送迎サービス業務	旅客送迎サービス業務の概要と心構えについて学ぶ
11	航空貨物業務	航空貨物輸送の特徴と業務の概要について学ぶ
12	航空会社の仕事	パイロット、客室乗務員、営業、販売・予約、案内のしごとについて学ぶ
13	各単元振り返り	各単元のまとめ、振り返りを行う。
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	エアライン業界総合Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	エアライン業界総合Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	エアライン・ビジネス入門　第2版 講師作成資料		出版社	晃洋書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	航空機の機種やメカニズムについての知識を習得する。また、航空輸送の安全と航空保安について学び、安全の重要性を理解し、安全に対する高い意識を醸成する。
到達目標	航空機の機種やメカニズムを理解し説明することができる。過去の事例から安全の重要性を理解し、高い意識を持つことができる。
評価基準	テスト：30%　小テスト：20%　提出物：20%　（意欲・態度　30%）
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	無
関連科目	空港業務演習Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	幸喜　若菜
実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 航空業界の最近の話題	航空業界の最近の話題について学ぶ
2	航空機の基本構造①	航空機の基本構造と仕組みについて学ぶ
3	航空機の基本構造②	航空機の基本構造と仕組みについて学ぶ
4	飛行のメカニズム	飛行の原理について学ぶ
5	航空気象	離着陸に及ぼす気象条件について学ぶ
6	航空会社の安全管理	「安全」及び安全管理について学ぶ
7	航空輸送の安全①	航空輸送の安全について学ぶ
8	航空輸送の安全②	JL123便の事故について学ぶ

9	航空保安①	保安対策基準の脅威レベルについて学ぶ 空港のセキュリティ対策について学ぶ
10	航空保安②	アメリカ同時多発テロ事件について学ぶ
11	航空保安③	全日空ハイジャック事件について学ぶ
12	エアライン業界の今後	エアライン業界の今後について学ぶ
13	各単元振り返り	各単元のまとめ、振り返りを行う。
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	外国語Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	外国語Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	15
使用教材	四訂版･韓国語の世界へ 入門編		出版社	株式会社朝日出版社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	文字の読み方と書き方、文章の仕組みや助詞など基礎文法、挨拶など基礎表現		
到達目標	ハングルを学び、基礎韓国語を理解し、挨拶等簡単な韓国語が出来る		
評価基準	授業態度50％、テスト50％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	ハングル検定5級		
関連科目	外国語Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	浜川　由璃香	実務経験	○
実務内容	現役韓国語講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ　到達目標等について説明、韓国・韓国語についての概略
2	韓国語の世界へ　第１課 文字と発音（1）	短母音
3	韓国語の世界へ　第１課 文字と発音（１）	半母音
4	韓国語の世界へ　第１課 文字と発音（１）	初声（鼻音・流音）
5	韓国語の世界へ　第１課 文字と発音（１）	終声（パッチム）①
6	韓国語の世界へ　第２課 文字と発音（2）	初声（平音）
7	韓国語の世界へ　第２課 文字と発音（2）	二重母音

8	韓国語の世界へ　第２課 文字と発音（2）	【発音の規則】連音化初声
9	韓国語の世界へ　第３課 文字と発音（３）	（激音）初声
10	韓国語の世界へ　第３課 文字と発音（３）	（濃音）終声
11	韓国語の世界へ　第３課 文字と発音（３）	終声（パッチム）②
12	韓国語の世界へ　第３課 文字と発音（３）	かなのハングル表記
13	復習とあいさつ	総まとめと韓国語のあいさつ
14	テスト	期末テスト
15	テストの振り返り	テストの振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	外国語Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	外国語Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	四訂版･韓国語の世界へ 入門編		出版社	株式会社朝日出版社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	基礎韓国語を話せる、書ける、基礎会話が出来るようにする		
到達目標	ハングル検定5級合格		
評価基準	授業態度50％、テスト50％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	ハングル検定5級		
関連科目	外国語Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	浜川　由理香	実務経験	○
実務内容	現役韓国語教師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ　前期の復習
2	韓国語の世界へ　第４課 韓国人です	助詞 「は」
3	韓国語の世界へ　第４課 韓国人です	입니다体「です・ですか」
4	韓国語の世界へ　第５課 韓国語は専攻ではありません	助詞「が」、이에요体「です・ですか」
5	韓国語の世界へ　第５課 韓国語は専攻ではありません	이/가 아닙니다「ではありません」、期末テスト
6	韓国語の世界へ　第６課 教室は階段の横にあります	漢字語数字
7	韓国語の世界へ　第６課 教室は階段の横にあります	助詞「に」、있어요・없어요「います・いません」

8	韓国語の世界へ　第７課 午後、時間大丈夫ですか	해요체「ヘヨ体①」
9	韓国語の世界へ　第７課 午後、時間大丈夫ですか	助詞「を」、助詞「も」
10	韓国語の世界へ　第８課 小学生にテコンドーを教えています	해요体「ヘヨ体②」
11	韓国語の世界へ　第８課 小学生にテコンドーを教えています	助詞「で」、助詞「に」
12	韓国語の世界へ　第９課 ふつう、6時に起きます	해요体「ヘヨ体③」、助詞「で」、小テスト②
13	韓国語の世界へ　第９課 ふつう、6時に起きます	助詞「～から～まで①」、固有語数字
14	テスト	復習、テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	観光英会話Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	観光英会話Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	English for Tourism professional （NATIONAL GEOGRAPHIC Learning）		出版社	三修社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	観光業界で接客する際に英語を使いこなせるようになるための実践英語を身につける
到達目標	英語を使っての接客の基礎を身につける
評価基準	テスト４０％、小テスト２０％、提出物＆宿題２０％、授業態度２０％
認定条件	・出席が総時間の３分の２以上あるもの ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	島村　レイ　　実務経験　○
実務内容	英語教員経験

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 英語の基礎	授業のねらい・到達目標・成績評価について説明 Tourism jobs/Discussion about travel/tourism and Language
2	Introduction	これまで習ってきたような会話の基礎を使ってみる Listening / Dialogue study/Speaking practice /Reading
3	Unit 1 Recommending a tour	ツアーのご案内の仕方
4	Unit 2 Taking tour booking	ツアーの予約の取り方
5	Unit 3 Escorting a tour	ツアーガイド
6		
7	Unit 4 Welcoming international tourists	海外から来る観光客の受け入れ
8		

9 10	Unit 5 Taking an airline reservation	航空券の予約の仕方
11 12	Unit 6 Giving flight information	フライト情報
13	定期テスト	テストの実施
14 15	Unit 7 Helping passengers check in	乗客のチェックイン

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	観光英会話Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	観光英会話Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	English for Tourism professional （NATIONAL GEOGRAPHIC Learning）		出版社	三修社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	観光業界で接客する際に英語を使いこなせるようになるための実践英語を身につける
到達目標	英語を使っての接客の基礎を身につける
評価基準	テスト４０％、小テスト２０％、提出物＆宿題２０％、授業態度２０％
認定条件	・出席が総時間の３分の２以上あるもの ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	島村　レイ　　実務経験　○
実務内容	英語教員経験

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 会話の復習	英語の基本的な文法や品詞などを振り返り確認、学習する、会話の復習
2	Unit 8 Working at the boarding gate	搭乗ゲートでの業務
3	Unit 9 Offering in-flight services	機内サービス
4		
5	Unit 10 Giving CIQ information	CIQ手続き
6	Unit 11 Taking a room reservation	お部屋の予約の取り方
7	Unit 12 Welcoming Guests	ゲストのお出迎え
8		

9 10	Unit 13 Helping guests	ゲストへのお手伝い
11 12	Unit 14 Dealing with complaints	クレーム対応
13	定期テスト	テストの実施
14 15	Unit 15 Sending guests off	ゲストお見送り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	観光プロデュースⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	観光プロデュースⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	観光という観点から社会問題の解決を図るための取り組みを考察・実施する。		
到達目標	これまでの授業や実習を通じて学んできたことを生かし、沖縄県が抱える社会問題に焦点を当て、その問題を解決するために観光という観点から自分たちに何ができるか自発的に考え、行動することが出来ている。 仲間と協力し、ひとつのものを作り上げようという意識が醸成できている。		
評価基準	授業態度・姿勢　70％　プレゼン　30％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	相澤　和人	実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	これから実施していくことの流れとゴールの説明
2	沖縄の課題	沖縄県が抱える課題に関して個人ワークで洗い出しを行う
3	沖縄の課題	前回行ったワークをグループ単位で実施、分析を行う
4	プレゼン概要	グループで行うプレゼンの概要説明
5	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成
6	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成
7	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成

8	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成
9	プレゼン練習	グループごとに作成したプレゼンの練習
10	プレゼン練習	グループごとに作成したプレゼンの練習
11	プレゼン練習	グループごとに作成したプレゼンの練習
12	コンペティション	グループごとに作成したプレゼン資料を用いてプレゼンの実施
13	コンペティション振り返り	コンペティションの結果発表と振り返り
14	実施に向けた方向性決め	優勝グループのプレゼンを基盤に実施に向けた方向性を確定させる
15	実施に向けた方向性決め	優勝グループのプレゼンを基盤に実施に向けた方向性を確定させる（役割分担など）

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	観光プロデュースⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	観光プロデュースⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	観光という観点から社会問題の解決を図るための取り組みを考察・実施する。		
到達目標	これまでの授業や実習を通じて学んできたことを生かし、沖縄県が抱える社会問題に焦点を当て、その問題を解決するために観光という観点から自分たちに何ができるか自発的に考え、行動することが出来ている。 仲間と協力し、ひとつのものを作り上げようという意識が醸成できている。		
評価基準	授業態度・姿勢　80％　レポート　20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	相澤　和人	実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	本番を迎えるまでのスケジュールの確認
2	企画実施に向けた活動	役割にわかれて企画実施に向けた活動を行う 必要に応じて外部企業様との打ち合わせや買い出し等も極力この時間内に実施すること
3	企画実施に向けた活動	
4	企画実施に向けた活動	
5	企画実施に向けた活動	
6	企画実施に向けた活動	
7	企画実施に向けた活動	

8	企画実施に向けた活動	役割にわかれて企画実施に向けた活動を行う 必要に応じて外部企業様との打ち合わせや買い出し等も極力この時間内に実施すること
9	企画実施に向けた活動	
10	企画実施に向けた活動	
11	企画実施に向けた活動	
12	企画実施に向けた活動	
13	紙面リハ	本番当日のイメージが持てるように統括を中心に紙面リハの実施
14	リハーサル	本番にむけたリハーサルの実施
15	振り返り	本番の振り返りのレポート実施

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	手話		
必修選択	選択	（学則表記）	手話		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	手話で学ぼう手話で話そう		出版社	手話で学ぼう手話で話そう	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	聴覚障害者の言語である「手話」の基本と聴覚障害者に関する知識を学ぶ。		
到達目標	・接客場面に於ける聴覚障害者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を習得し、実践できる。 ・外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に、適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学ぶ。		
評価基準	筆記試験：40％　読み取り試験：30％　小テスト：20％　レポート：１０％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	全国手話検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	神田　朋子	実務経験	○
実務内容	一般社団法人　沖縄県聴覚障害者教科書　ろう講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 講義：聴覚障害・手話について	授業の説明・注意事項 「聴覚障害者・コミュニケーションについて」
2	伝えあってみましょう 自己紹介	身振り、表情を工夫することを考え相手に伝える 手話で挨拶・名前を紹介する。指文字を覚える
3	家族紹介 数を使って話す	自己紹介、家族に関わる手話を覚える 数字の表し方、疑問詞の使い方を知る
4	講義：聴覚障害者の生活Ⅰ 趣味について話す	①ＤＶＤ鑑賞　②「福祉制度について」 趣味に関わる手話表現が正確にできる
5	仕事について話す 接客の時に使う手話Ⅰ	仕事に関わる手話を覚える 接客関係の仕事を中心にいろいろな職業の表し方を覚える
6	講義：聴覚障害者の生活Ⅱ 住所を紹介する	「聴覚障害者の生活について～講師の体験～」 住所に関わる手話を覚える
7	まとめ・小テスト 接客の時に使う手話Ⅱ	復習・自己紹介のまとめ　読み取りテスト 接客関連単語、例文表現

8	講義：聴覚障害の基礎知識 接客対応例文Ⅰ	「耳の仕組み・聞こえの仕組みについて」 接客時に使う会話例文
9	時に関する手話Ⅰ	１日・週・１カ月に関わる手話を覚える
10	時に関する手話Ⅱ	1年に関わる手話を覚える。会話練習
11	話してみましょうⅠ	今まで学習した疑問詞を使って会話の練習をする
12	話してみましょうⅡ	病院・学校・職場などの生活場面を想像しながら手話で会話ができる 2人一組で会話練習
13	接客対応例文Ⅱ 手話検定に向けての学習	接客時に使う会話を文を練習する 手話検定5級・4級合格に向けて今まで学習した事の復習を行う
14	定期試験	試験を実施する
15	総まとめ 手話検定に向けての学習	試験の振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ユニバーサルサービス		
必修選択	選択	（学則表記）	ユニバーサルサービス		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	ユニバーサルサービス基本テキスト		出版社	日本能率協会マネジメントセンター	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	様々な身体の特長を持つ方を知り、体験を通し、幅のあるサービスができるようになる。		
到達目標	障害や、加齢、妊娠などによる身体の変化を知り、体験をすることで、どのような方にも快適なサービスが提供できるようになる。		
評価基準	授業態度６０％　実技試験 ４０％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	サービス介助士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	與那嶺　佳吾	実務経験	○
実務内容	県内にて児童デイサービスの運営、介護経験あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 人の命とは？	授業のねらい・到達目標・成績評価について説明 人間が産まれてくる過程を理解し、命の尊さをしる。
2	人が育つということ。	妊娠してから成長するまでどのような過程があるのか。妊婦体験。
3	障害とは？	障害とは、どんなことを言うのか？理解する。
4	耳が聴こえない世界	耳が聴こえない体験を通じて難聴がある方への介入方法をしる。
5	目がみえないとは？	目が見えない体験を通し、視力障害があるかたへの介入をしる。
6	四肢障害	車イスを使った実習
7	体験を通して	体験を通して、様々な身体の特長を持った方への介入方法を考える。
8	体験を通して	ホテルや空港で起きやすい事象と、その対応方法を考える。

9	体験を通して	これまでの振り返り。
10	高齢者とは？	高齢者の身体的特長を知る。
11	高齢者への関わり	高齢者の身体的特長を理解した上での介入の方法とは？
12	外国人観光客への対応	日本語が伝わらない方に、どのようなサービスができるのか考えてみる。
13	外国人観光客への対応	外国人への、対応、サービスの実践。
14	総復習	今までの総復習
15	まとめ	学んだことのまとめ、振り返り。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション		
必修選択	選択	（学則表記）	プレゼンテーション		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	はじめてのPowerPoint2019		出版社	秀和システム	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	社会人として必要なPowerPointの知識とプレゼンテーションスキルを習得する		
到達目標	パワーポイントを使用した実践的なプレゼンテーションができる		
評価基準	プレゼンテーション：40%　提出物：30%　小テスト：30%		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	上野　晏	実務経験	○
実務内容	ブラジルの学校で日本語教師として1年間勤務ののち児童福祉企業にて勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 基本操作	授業の流れ、到達目標について、PowerPointとは PowerPoint
2	PowerPointの基本操作	PowerPointの基本操作を学ぶ
3	プレゼンテーションの作成	新しいプレゼンテーションを作成する
4	プレゼンテーションの編集	プレゼンテーションの様々な編集について学ぶ
5	作品作成	観光業界に関するテーマのPowerPoint作成とプレゼンテーション準備
6		
7	上手なプレゼンとは	上手な発表の方法と評価について学ぶ

8	発表	プレゼンテーションの発表会の実施
9	まとめ	プレゼンテーションの振り返りとまとめ
10	PowerPointの応用操作	PowerPointの応用操作を学ぶ
11	作品作成	観光業界に関するテーマのPowerPoint作成とプレゼンテーション準備
12		
13		
14	コンペティション	コンペティションの実施
15	総まとめ	プレゼンテーションの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる
評価基準	実習評価：５０％　学校評価：５０％（実習手帳評価）
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する ※評価基準は学外実習規定に準ずる
担当教員	友利　まち子　　実務経験　○
実務内容	ウエディングプランナー歴5年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	１日の実習時間の最大は８時間（休憩時間を含めず）とし、原則２２時まで

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップⅢ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップⅢ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる
評価基準	実習評価：５０％　学校評価：５０％（実習手帳評価）
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する ※評価基準は学外実習規定に準ずる
担当教員	友利　まち子　　実務経験　○
実務内容	ウエディングプランナー歴5年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	１日の実習時間の最大は８時間（休憩時間を含めず）とし、原則２２時まで

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ホテル業務演習Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	ホテル業務演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ホテル・マネジメント概論		出版社	一般社団法人日本宿泊産業マネジメント協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ホテルマネジメント技能検定に合格し、マネジメントの観点からホテルを理解する。 また、実技授業を通して実践的な知識・技術を習得し企業が求める即戦力となる人材を目指す
到達目標	・マネジメントを意識して働くことの重要性に気付く ・マネジメントの観点からホテルを理解する ・サービス面ばかりでなくマネジメントの面からも毎日の業務を考えることが出来る ・実習授業を通し、サービス技術を体得し、即戦力となる人材になる
評価基準	・筆記テスト３０％・実技テスト３０％　・小テスト２０％　・授業態度・提出物２０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	ホテル業務演習Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮城　正樹
実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と検定概要　1年時の復習
2	業務運営管理２－３	宴会サービスの業務と要求される能力の理解
3	業務運営管理２－４	営業 ・マーケティング職種の業務と要求される能力の理解
4	業務運営管理２－５	施設管理職種の業務と要求される能力の理解
5	業務運営管理２－６	危機管理職種の業務と要求される能力の理解
6	業務運営管理２－７	経営管理職種の業務と要求される能力の理解
7	ホテル法務知識	ホテル法務知識の概要演習
8	購買管理 ・人材マネジメント	購買管理の概要理解 ・人材マネジメントの概要理解

9	定期テスト	定期テストの実施
10	検定直前対策	過去問等を使用し、直前対策を実施
11		
12		
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ホテル業務演習Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	ホテル業務演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ホテル・マネジメント概論		出版社	一般社団法人日本宿泊産業マネジメント協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ホテルマネジメント技能検定3級に合格し、マネジメントの観点からホテルを理解する。 また、実技授業を通して実践的な知識・技術を習得し企業が求める即戦力となる人材を目指す
到達目標	・マネジメントを意識して働くことの重要性に気付く ・マネジメントの観点からホテルを理解する ・サービス面ばかりでなくマネジメントの面からも毎日の業務を考えることが出来る ・実習授業を通し、サービス技術を体得し、即戦力となる人材になる
評価基準	・筆記テスト３０％・実技テスト３０％　・小テスト２０％　・授業態度・提出物２０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	ホテル業務演習Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮城　正樹
実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と実技試験の概要と特徴について
2	マネジャー業務	マネジャーに求められる能力の理解
3	ホテルの会計の概要①	ホテルの会計の概要の理解（１）
4	ホテルの会計の概要②	ホテルの会計の概要の理解（２）
5	ホテル・マーケティング	ホテル ・マーケティング概要演習
6	検定直前対策	過去問等を使用し、直前対策を実施
7		
8		

9		
10	ベル業務実習	応用的なベル業務について学ぶ
11 12	フロント業務実習	応用的なフロント業務について学ぶ
13	客室業務実習	応用的な客室業務について学ぶ
14	定期テスト	テストの実施
15	総括	訪日外国人の動向・ホテル業界の今後について学ぶ。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	空港業務演習Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	空港業務演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ＡＮＡグランドスタッフ入門 最新版		出版社	イカロス出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	グランドスタッフとして即戦力となり得る知識、振る舞いを身に付ける
到達目標	グランドスタッフとしての基礎知識を身に付け、カウンターでのチェックイン業務、搭乗ゲート業務、到着業務の基本動作が出来るようになる
評価基準	実技テスト：40％　小テスト：20％　提出物：20％　意欲・態度：20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	エアライン業界総合Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	幸喜　若菜
実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、GSの仕事とは
2	GSとしての基本マナー①	身だしなみ、エアラインメイク・ヘアメイク実践 グランドスタッフに相応しいマナー
3	GSとしての基本マナー②	小テスト、立ち居振る舞い
4	カウンター業務・基本①	チェックイン業務について・手荷物のルールと手荷物預かり業務の実践
5	カウンター業務・基本②	チェックイン業務シミュレーション
6	アナウンス基礎	アナウンス座学
7	搭乗ゲート業務	搭乗ゲート業務について
8	アナウンス実習	搭乗ゲートにおけるアナウンス実習

9	到着業務	到着業務について
10	カウンター業務・応用①	UMNRへの対応、乗り継ぎのあるお客様への対応
11	カウンター業務・応用②	超過手荷物の対応、ペット受託
12	アナウンス実習	アナウンス実習
13	ケーススタディ	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
14	総まとめ	総まとめ
15	実技テスト	実技テスト実施

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	空港業務演習Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	空港業務演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ANA グランドスタッフ入門　最新版		出版社	イカロス出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	グランドスタッフとして一人一人のお客様に対応できる応用力を身に付ける
到達目標	応用力を身に付け、様々な状況において対応できるようになる
評価基準	実技テスト：40％　小テスト：20％　提出物：20％　意欲・態度：20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	エアライン業界総合Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	幸喜　若菜
実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	到着業務・応用	到着時のイレギュラー対応
3	アナウンス実習	到着時のアナウンス
4	特別旅客への対応①	特別旅客について
5	特別旅客への対応②	車椅子をご使用のお客様への対応
6	特別旅客への対応③	目の不自由なお客様への対応 耳のご不自由なお客様への対応
7	特別旅客への対応⑤	お子様連れのお客様への対応
8	イレギュラー時の対応	イレギュラー時の対応を学ぶ

9	アナウンス実習	イレギュラー時のアナウンス
10	ケーススタディ①	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
11	ケーススタディ②	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
12	ケーススタディ③	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
13	ケーススタディ④	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
14	実技テスト	実技テスト実施
15	演習総まとめ	テストの振り返りと後期の総まとめを行う